



与路小・中学校 学校だより

瀬戸内町立与路小・中学校 学校だより「与路っ子」令和5年度9月号

与路っ子 9

「奄美の伝統文化」

校長 川井 功作

今年度はコロナ禍の規制もなくなり、ここ与路島でも4年ぶりに豊年祭を開催することができました。青壮年団による土俵の修復作業から始まり、土俵入りの練習、婦人会による踊りの練習と連日連夜の準備等もあり、島も活気が戻ってきました。当日は、島民・島出身者・教職員も全員参加し、とても楽しい時間を共有することができました。そこで今回は、奄美の伝統文化、豊年祭と八月踊りについて少し触れたいと思います。

奄美大島の各集落における大イベント「豊年祭」は、旧暦（大陰暦）に基づいて行われます。最も代表的かつ楽しみにしている行事の一つになります。一年間の農作物の収穫を祝うとともに、集落の無病息災に感謝する行事で、奉納相撲や余興、八月踊りで賑わいます。近年では、敬老会も同時に行われ、料理や余興で敬老者をもてなします。豊年祭で行われる相撲は元来、神事と深く関与して成立し、以後、娯楽性や競技性を高めていったとされています。また、島の暮らしを守る力強い男性像を具現化する象徴として執り行われてきました。

豊年祭の最後は八月踊りで締めくくられます。踊りの起源は「五穀豊穡の祈願」と言われることが多いですが、集落によっては「火災予防」として始まったと伝わる集落もあります。八月踊りを踊らない家は火事になるといわれたそうです。踊りでは男女が輪になり、集落独自のメロディー、歌詞、振り付けに合わせて踊ります。唄は集落ごとの方言で歌われ、チヂン（太鼓）と甲高いハト（指笛）で伴奏されます。奄美の北部では、踊りが進むにつれてテンポが上がっていきませんが、南部ではテンポが変わらないまま踊られます。昔、奄美は山がちな内陸部の地形によって集落同士の交流が限られていたため、各集落で独自の踊りや唄になったそうです。現在、運動会では必ずどの学校も子ども達が集落の皆様と一緒に踊りを披露します。奄美の伝統文化の継承、学校の果たす役割はとても大きいです。

防災訓練

9月7日(木)、瀬戸内消防署から2名の消防士に本校いただき、防災訓練を実施しました。

今回は、地震→火災を想定した訓練で、消火器の取り扱いを学んだり、防災にかかわる講話を聞いたり、学びの多い時間となりました。また、職員にも災害時の具体的な動きを指導していただき、非常に貴重な時間となりました。



教育長訪問



9月14日(水)、学期に一度の町教育長訪問が行われました。教育長をはじめとする教育委員会の方々から子供たちの様子、教育環境などについての助言や励まし、指導などをいただきました。また、その日は、お昼を挟んだ来校であったため、子供たちが教育長と給食を一緒にいただくという貴重な機会にもなりました。

ふれあい活動

9月9日(土)の土曜授業では、八月踊りの練習と地域の方から島口を学ぶふれあい活動を実施しました。

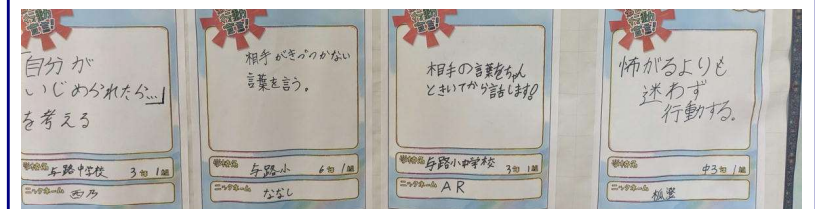
ふれあい活動では、今年も学習発表会で披露する島口劇の台本作成に取り組みました。今年は「となりのヨロヨ（ちぎゃたありヨロヨ）」という森の妖精と島の子どもとの交流を描いた創作劇です。例によって子供たちは馴れない島口に苦戦しながらも、地域の方の話す言葉を必死に書き写したり、しゃべったりしながら、標準語の台本を島口に改めていました。

発表は11月3日の学習発表会と11月18日の町子ども島口伝統芸能大会で行います。



いじめ問題を考える週間

9月の1週目は「いじめ問題を考える週間です。本校では、いじめや人権に尊重にかかわる授業を通じ、各自がいじめ撲滅の宣言文を考え、学校全体で共有しました。



おもな10月の行事

- 5 (木) 薬物乱用防止教室
- 11 (火) 町小学校陸上記録会
- 13 (金) 小学校三島集合学習会
- 19 (木) 中学校三島集合学習会
- 28 (土) PTA与路港清掃